

## 2 気道異物の除去

気道や食道に異物が詰まると、呼吸ができなくなり、咳き込む、話しかけても声が出せない、のどをつかむような仕草をするなどの苦しい状態を示します。

背中をたたいたり、咳をすることなどで異物が取り除ければ良いのですが、異物が取り除けない場合や呼吸困難により意識がなくなった場合には、早急にのどから異物を取り除く必要があります。

### (1) 乳児の場合

泣いたり顔をしかめるなど何らかの反応がある場合は自分の手に乳児のあご、体を前腕にのせ、頭部を低くして、もう一方の手のひらのつけ根（<sup>しゅしやう きぶ</sup>手掌基部）で背中の真ん中を力強くたたき**背部叩打法**を行います。背部叩打法で取れなければ、胸部を圧迫する**胸部突き上げ法**を背部叩打法と交互に行い、異物が取れるか反応がなくなるまで続けます。万が一、反応がなくなった場合は、心肺蘇生法を開始します。

図3-23 反応のある乳児に対する気道異物除去



- ① 背中を強くたたき方法（背部叩打法）  
乳児をうつぶせにして、腹側に腕をとします。乳児の下あごを支えて軽く突き出し、上半身がやや低くなるようにし、手のひらのつけ根で両側の肩甲骨の間を4～5回叩きます。



- ② 胸骨を圧迫する方法（胸部突き上げ法）  
背部叩打法で除去できなければあおむけにして、胸骨圧迫の要領で4～5回圧迫する。  
①と②を、異物が取れるか、反応がなくなるまで繰り返します。

### (2) 幼児の場合

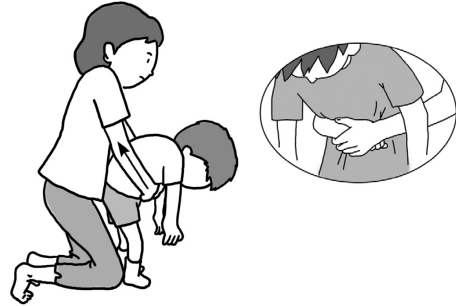
素早く抱きかかえる、または大腿部で支え、頭を低くして手のひらのつけ根で背中の真ん中をたたきます（**背部叩打法**）。もしくは、後ろから抱くような形で腹部に腕をまわし、一方の手で握り拳（<sup>こぶし</sup>こぶし）を作り、親指側を傷病児の上腹部に当て、胃を圧迫するように瞬間的に突き上げます（**腹部突き上げ法（ハイムリック法）**）。

腹部突き上げ法を行った後は、異物が除去できても、臓器を損傷している可能性が

図3-24 反応のある幼児に対する気道異物除去



- ① 背中を強く叩く方法（背部叩打法）  
子どもを抱きかかえられない場合などは、座らせた状態で肩を一方の手で支え、もう一方の手のひらのつけ根で子どもの左右の肩甲骨の中間あたりを力強く何度も連続して叩きます。



- ② 腹部を突き上げる方法（腹部突き上げ法）  
背部叩打法で除去できなければ、片手で握りこぶしをつくり親指側をみぞおちにあて、もう一方の手で握りこぶしを支えて、胃の方に向かって突き上げる。  
①と②を、異物が取れるか、反応がなくなるまで繰り返します。

あるため必ず医療機関を受診します。